

異文化と 心通わせ

(84)

村田 佳子



大切に使つた英語のエツですが、セー集を持ってきてくれた、その彼女に本屋さんでそんな「想い出」もあり名前を見つけたことを伝えます。

再会したその週末、近所の本屋さんをぶらぶら歩いていて彼女のことを思い出しました。参考書を見つけてもらひて照れく、「想い出」と話が並ぶコーナーで「こうした。形に残る仕事を並べた。形に残る仕事を学ぶ人が多い」と話す。外國語を学ぶ人をこんな形で助ける仕事があるのだらためて知りました。

ところが、久しぶりにあった参考書を手に取り、パラパラめぐつていると、最後の

彼女の肌はツルツル、瞳は潤んページに編集者としての返つて見えたのです。中高生が並んで参考書を選んでいる横で私は「うおー」と叫び声なんか若返ったです。「あれ、なんか若返った」と言う私の言葉に、彼女は「好きなことしているからかな」とヒーッリ。充実感は顔にできるようですね。

昔から本と英語が大好きで、仕事を就きたいと當時そつと夢を語り、コソコソ転職活動していたあのころ。英語のリーディングが苦手だった私が彼女に相談すると、次の日、彼女は

ビルやダムなどの大きな建物を見るといつた人に先日5年ぶりに再会しました。彼女は今、大手出版社に転職して6年目。英語の参考書などの編集の仕事をしています。チャーミングな外見に反して男性顔負けのハードなビジネススマイルを送り、平日は夜中まで仕事をしていること

タ一で以前、机を並べていた友人に先日5年ぶりに再会しました。彼女は疲れきってしまうのでは、いつのを作っているんだ?

JICA筑波国際セン も多く、時期によつて



同僚が友達になるとき

中高生のころ、参考書や単語帳は使えば使はうほど自分で支えてくれいで、試験直前まで握り締めていた人も多いでしょう。そうして支えてくれたものには作る人の情熱、想いがあると感動深いものがあります。

身近な人の夢は意外には叶うなんていろんな葉で書くのも照れくさく

感じますが、彼女の名前を参考書を見つけたとき、そこにはいた夫に向かって「叶うんだね!」でした。そして再会できただと、本人は叶えた」とさえ思っても感謝しています。

（鶴岡市出身、コーチングシステムズ）